

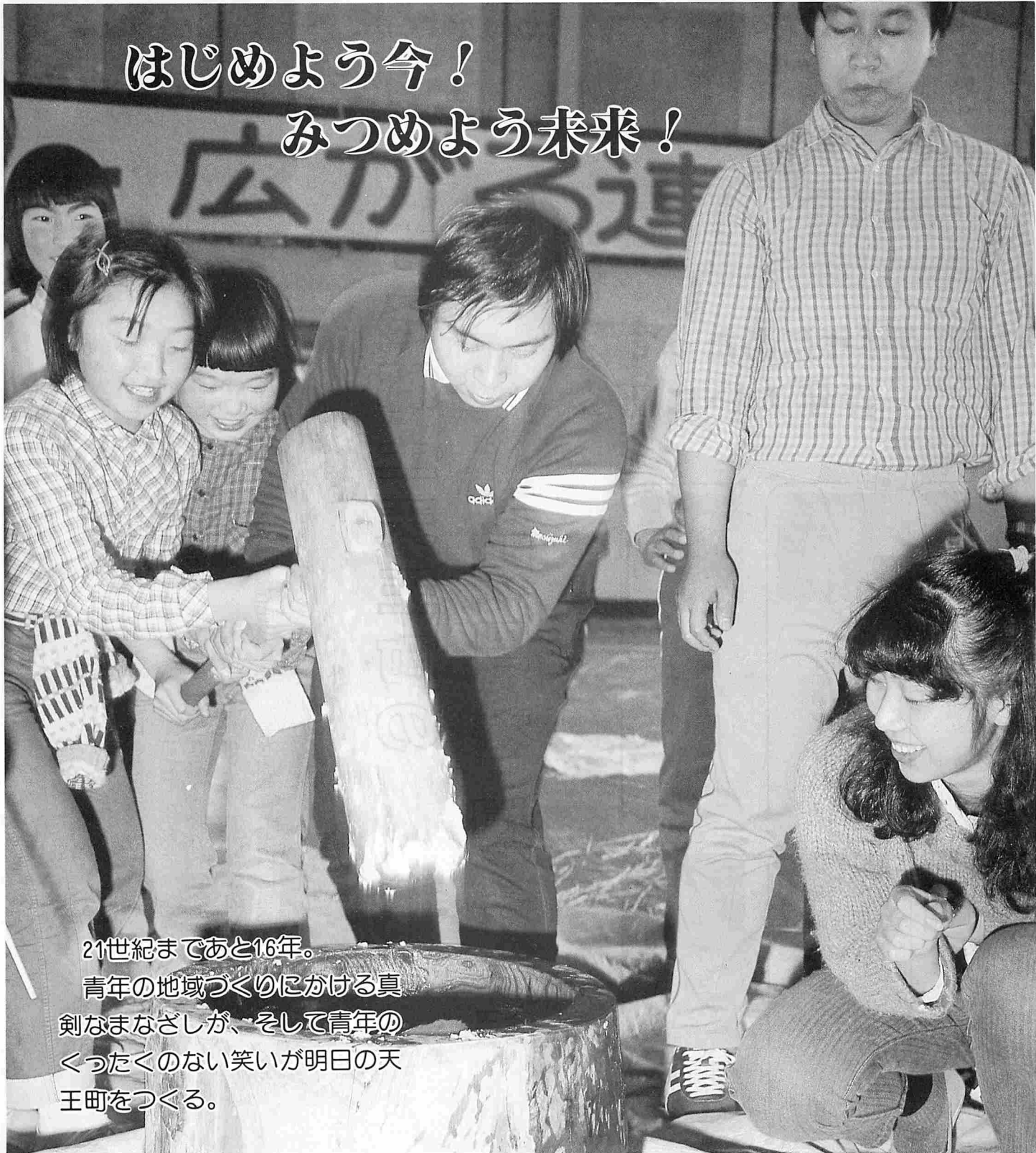
広報 てんのつ

No. 273

昭和60年

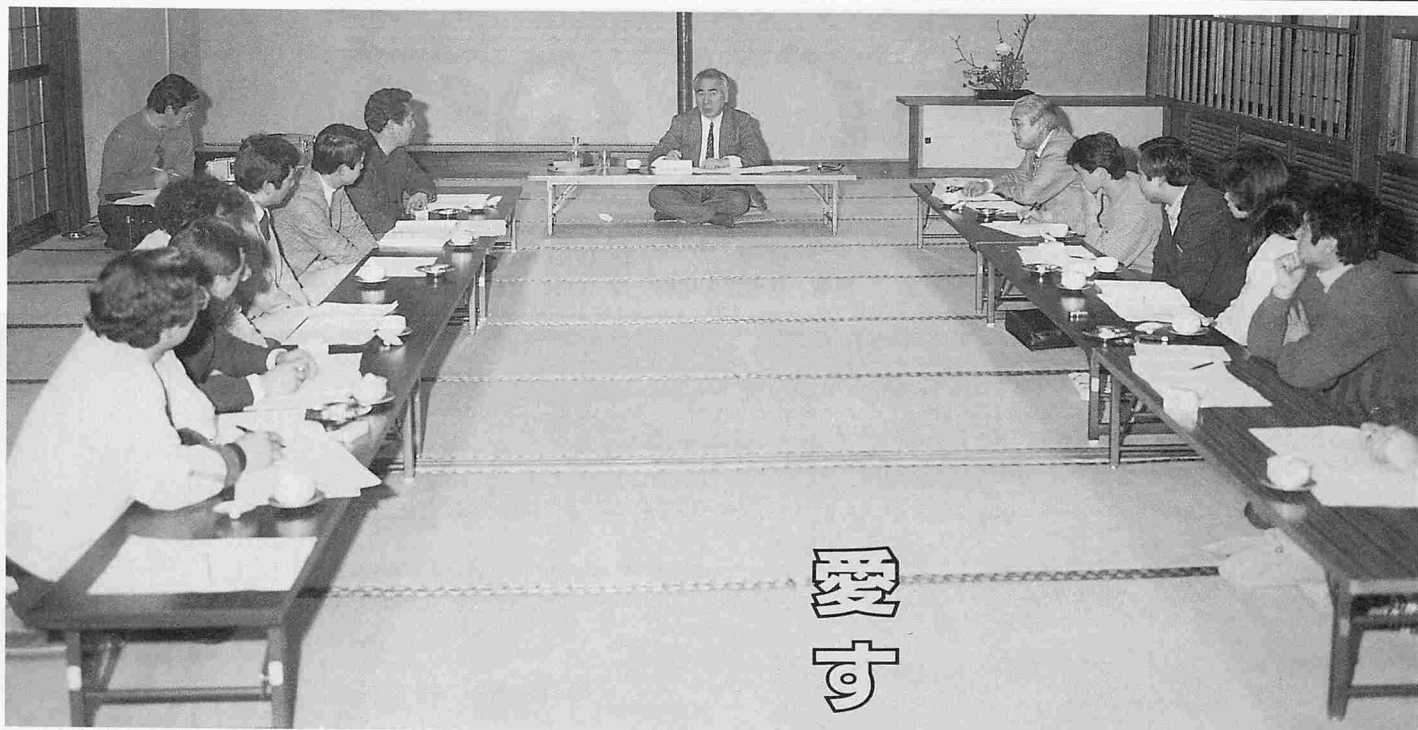
3月25日発行

発行・秋田県天王町役場 ☎ (0188) 78-2211~4
 編集・企画室 印刷・秋田協同印刷 ☎ (0188) 23-7477~8



はじめよう今！
 みつめよう未来！

21世紀まであと16年。
 青年の地域づくりにかける真
 剣なまなざしが、そして青年の
 くったくのない笑いが明日の天
 王町をつくる。



愛する郷土天王町の

明日を担って

国際青年年にあたって 青年大いに語る

未来を築く——それはいつの時代も青年の役割です。

家庭、地域社会、国際社会など青年を取り巻く「社会」はさまざまですが、青年が自らの意志、判断、活動によって積極的に社会参加を進めていくことが求められています。

昭和六十年は国連で定めた国際青年年です。

「参加、開発、平和」というテーマのもとに青年が社会参加をどのように進め、また自分たちに与えられた課題にどのように取り組むべきか——。

広報てんのうでは、「始めよう今/見つけよう未来/」の青年年スローガンのもとに、町内各層の青年による座談会を開催し、大いに語ってもらいました。



天王町長
藤原慶二郎



天王町教育長
石川 次男



司会
天王町商工会青年部長
安田 次男(二田)



天王町連合青年会
安東 敦(天王)



天王町連合青年会
柏崎 勇人(天王)



天王町連合青年会
畠山 浩美(大崎)

地域づくりに 青年がひとつになつて

町長 一つの時代にあつても青年のもつ純粹さとバイタリティーが、地域を動かす原動力となります。

おりしも今年には国際青年年でもあり、青年のみなさんとじかに語り合い、今後の行政を進める上に活かしてまいりたいと思います。

よろしく願います。

司会 青年が地域の中に溶け込み様々な形で組織活動が行われている訳ですが、まず組織活動を進める上での現状と課題なりについて語っていただきたいと思ひます。

加藤 最近やや鈍化しているとはいへ人口増を続ける本町にあつて、残念ながら小売商業の売上高が人口増と結びついていないという点があげられます。商工会関係の会議はもちろん、私たち

商工会青年部の中でも地元消費をいかにして伸ばすかということが話し合われている訳ですが、なかなかいい策が見つかからないというのが実情です。

安東 天王町連合青年会では、現在会員数が四十数名という現状の中にあつて、花いっぱい運動や全町盆踊りへの協賛、三世代交流などを行つてい

ます。青年会の組織されている地域が少なくということもあつて、昨年はデモンストレーションも兼ねて町主催の駅伝大会にもオープン参加しましたが、成果として実つていません。

会員の不足をどのようにして補い、更には組織の強化をいかにして進めるかがこれからの大きな課題となつていきます。青年会の組織されていない出戸追分地域に加入の輪を広げていきたいものと考えています。



天王町商工会青年部
加藤 裕一(二田)



天王町青年ボランティア
菅生 修一(中羽立)



天王町青年ボランティア
三浦 龍美(大崎)



天王町農協青年部
安田 為久(羽立)



ふるさと保存会
佐藤 真弓(上北野)



社員
五十嵐 重男(長沼)



社員
藤原 秀政(江川)

菅生 私たち青年ボランティアの会員は、現在十三名です。今まで行ってきた事業としては、子ども向けの映画上映や指人形劇、ひとり暮らし老人の屋根の雪おろしなどを実施してきました。町内の各保育園へも、毎年ひな祭りに米ドンをつくって園児らから喜ばれています。

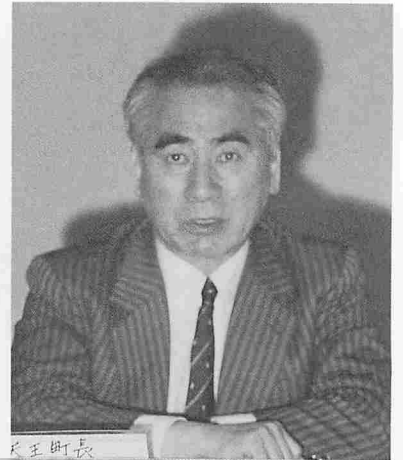
年間の事業計画みたいなものは特に決めていません。しいて課題としてあげるとすれば会員の不足ということになります。あくまでも志ある仲間が集団として、気ばらない活動を続けていきます。

司会 それぞれの組織が、課題を抱えながらも、活動している訳ですが、これらの課題をふまえ、青年組織が横の連携を深めていいたら、他にない青年

年にちなんだ大きな運動が展開できるのでは……。

教育長 青年年を見つめ直した場合、二十一世紀には世界に占める青年の割合が十二、三億にもなると言われている。社会状況にあつて、食糧問題をはじめとする様々な問題に、青年がどう対応していくのかということから国連で取り上げられたものです。秋田県でも県連青会長が、推進協議会長となつて先頃そのオープニング式典が行われました。本町にあつても、青年が自主的に主体性をもった動きがでてこなければならぬと思ひ、町でも積極的に支援していきたいと思ひます。

三浦 顔は覚えていても、なかなか声をかけにくい、入っていきにくいというのが実情だから、各組織同志がもっと打ち溶けてつながりを持つてるとは大変よいことだと思います。ただ私たちボランティアをやっている人間にとって、人数そのものは余り問題ではありません。ボランティアで屋根の雪お



町長

ろしをしたことが広報でんので紹介された時、各地域から大変な反響がありました。現代は、ボランティアの求められている時代だと思います。そういう意味でも、その意義、意識的な心の持ち方を大切にしていきたいと思えますね。

藤原 そうした場合には、一般参加も集い、誰でも気軽に参加できるように広く門戸を開放しておくことが必要だと思います。

私は、十三年間続けてきた農業、漁業をやめ二年前から秋田市にある食品卸問屋に勤めています。毎日青い海をみつめ人に使われる事のなかった自分が、百八十度の仕事転換になぜ耐えてやっていけるかというと青年会当時知らず知らずのうちに培った精神的な財産があるからだと思っています。仲間を集い、その中で自分を形成しながら地域発展を考え、将来を見すえてきたからだと思います。そういう意味で、組織の中で自己形成をはかるといふことは大変なことです。青年会ボランティアは、まず中身の充実を第一と考え、今やっていることに自信をもって運動を進めていくべきです。



女性という甘えもあるのでしょうか、仲間を引っぱって行くまでにはできないできました。私自身もっと本当の意味での理解を深めながら、青年会のピアーールに努めていくことが必要のように思います。

司会 年寄りからは喜んでもらえる町づくり、子どもには夢のある町づくり

お年寄りから喜ばれる町づくり 子どもには夢のある町づくり

司会 女性の立場からは、青年会活動をどう受けとめていますか。

島山 青年会を通じて、今この場でいろんな人の考え方を聞けること事態、私にとって大変いい経験をさせてもらっていると思います。



りということですね。

加藤 住み良い町づくりは買い物しやすい街並でなければと思います。

県道に通じる二田新町と二田駅前を流れるのある商店街とし、その中にゆつたりとくつろげるスペースなどを設けられたらいいですね。

町長 国鉄の駅前周辺の整備は、自転車置場の問題も含め土地交渉していま

す。しかしながら駅周辺の地価が高いことや国鉄の民営化が近い将来に予想される状況の中にあつては、難しい問題も多々あります。

行政を進めるにあたっては、住民負担のない住民に迷惑をかけない生活環境の整備を進めていきたいと考えています。

司会 観光面での出戸浜いこいの森と関連づけた鞍掛沼の整備計画はどのようになっていますか。

町長 二〇・七ヘクタールの広大な面積をもつ出戸浜いこいの森は、二億円をかけて既に整備が終っています。隣接する鞍掛沼については、総合的レジヤ―施設を兼ね備えた運動公園として整備を進めています。都市計画事業で実施することから、国の予算も厳しく、十年くらいかかるのではないかと思っています。

農業高等学園の跡地は一万五千坪を五洋電子工業株式会社から買ってもらい、事業の拡張に伴う新工場の建設地に充ててもらったことになっています。来年三月には創業予定で雇用の面でも大いに期待していると思います。



町長

今必要とされるのは 人材の育成

三 浦 若い人たちが地元で働けるとい
うことは、時間的にもゆとりがもてる
事であり、大変よいことです。将来自
分の子どもたちも安心して地元に残れ
るよう、一層優良企業の誘致を働きか
けて欲しいですね。

町 長 今までも相当な働きかけはして
きたものの、秋田県は交通体系のまず
さと雪寒地帯であること、そして最大
のウィークポイントはハイテク産業に
対応する人材が不足しているというこ
とです。まぼろしの開発に終わった秋田
湾開発の時から、工場誘致とあわせて、
人材育成をすべきだと提言し続けてき
ました。

今はIC関係が産業の米と言われて
いますが、これからは、鉄よりも強く
アルミよりも軽いと言われるような新
素材の開発や光ファイバーなど想像し
がたい社会が到来するものと思いま
すそれに呼応し、対応できる人材の育成
を県はもとより町村でも一体となつて



進めていかなければならないものと考
えています。

五十嵐 私は、雄勝町出身で、現在五洋
電子に勤めています。就職を決める
場合にやはり県内に残る者だけが遅く
決まるという状況がありましたし、今も
変わっていません。たまたま縁あつて
この天王町に住み既に十四年になりま
した。

先程の人材不足という点については
人材がいらないから企業がこないのか、
企業がこないから人材が集まらない、育
たないのか、どちらが先かという問題
があります。町を活性化させ、消費を
増やすのに、大型店が来たら必ず人が
集まるのかという点です。しかし人が
集まらない所に大型店はこないとい
うたちごっこ的なところがあるのかと
思います。

町 長 企業のくることが先決となりま
す。例えばある企業が事業を拡大して



いく場合、その下請けのできる技術を
もち合わせていることが絶対的条件と
なり、その事によって地元産業が大き
く発展し、雇用の面でも伸びていくこ
とになります。アキタ電子の下請けを
しているサマー電子にしましても経営
者は、東京の人です。そういう意味で
秋田県という土壌は、やればできるん
だけどもなかなか企業感覚の育ちにく
いところといった感じを受けています
時代に対応した経営者、技術者が秋田
には必要ですし、その変化にどう対応
していくかという事を若い人たちも考
えなければなりませんね。

司 会 ハイテク産業への企業感覚が育
たないというのは、秋田のもつ風土か
らくるものなのか、教育の方法論なの
かということになります。...

町 長 指導者の問題だと思えますね。
農政ひとつを例にとっても国政によつ
て左右されてしまいます。

誰も好んで減反したり、他用途利用米
を作りたと思う人はいないですよ
うことで、県の方では人材バンクとい
うことで、県外の方や学生など、多方
面に呼びかけ、その持てる技術、技能
などを登録してもらおう制度を進めてい
ます。それらの人たちが、地元に戻つ

てきても受け皿がなければ、さあど
うぞ」といっても無理な訳ですよ。地
元でどこまでやってくれるのかとい
う事が重要となる訳で、テクノポリスや
企業誘致にしても地元が伸びていくた
めの方向を見いだしていかなければな
らないと思えます。

商業の方では、私は上北野に住んで
いますが、買物はほとんど秋田市で済
ましてしまいます。仮に大型店が進出
しても、今度は地元商業が生き伸びて
いけるかという問題もでてきますね。

司 会 いい人材は、ほとんどが中央に
吸収されてしまう現状を打破するため
に、給料を倍出してもいいという企業
が秋田県にもでてきています。そうい
う企業は受け皿もすっかりとしていて
やはりトップクラスの企業です。足の
引っぱり合いでなく共に伸びていく感
覚が大切な訳ですよ。

大潟村の農業問題にしても自分のエゴ
を主張しすぎていた事が村全体のイメ
ージダウンとなっています。

安 田 農業情勢はいままで以上に厳し
くなつてきているのが実情です。地元
で農業を語り合う仲間たちと栽培技
術の問題や作物の流通経路、ここ三、
四年の不作にみまわれた原因などを研





究したりしているものの解決の糸口は簡単ではないようです。また二十五、六才以下の農業青年が育ってこない現状をみるにつけ、真剣に農業を考えていく若者が少なくなってきたという感じがします。

司 会 農業への明るいきざしは、今だ見えてこないものの、やり方によってはものすごく魅力のある仕事だと思えますね。

町 長 農業は生産的喜びがより大きいものと思いますが、今の農業経済はかなり厳しい状況にあります。

若い人たちが生産することへの喜びと使命感に燃えて取り組んでいく姿勢が今こそ求められている時と思います。

不作に終わった昨年の反省として地方の低下などが上げられています。町で行っている客土推進事業などを利用して効率性のある農業を見出し、意欲的に取りくんではいいものです。

町の方でも農協とタイアップして機械化センターの建設を進めた時期があったものの、これは取りやめになった経緯があります。いずれにしろ、機械化への対応をふまえ、情報を広げながら研究していかなければならない問題です。農業にしろ、ボランティアにしろ、

人から言われてやるのではなく、自らの心でやる——そうでなければいい作物、いい活動はできないのではないのでしょうか。

教育長 今まで出されたいろいろな問題をどう青年年と結びつけ、取り組んでいくかという事が大切です。それぞれ身近な課題に向かつてその解決策を講じながら、青年らしいビジョンにまで高めていってほしいですね。夜

次代に引き継いでいける町づくりを

を徹してひとつの問題に対して語り、議論を戦かわす、そんな青年が少なくなってきたのでは……。

過疎化の進む町村では、地元の青年たちがどうやって町、あるいは村の活性化をうながすかということに悩んでいるそうです。幸いにしてわが町は、そのような状況でないにしても、それとはまた違った意味での地域づくり運動の展開を期待したいものです。

柏 崎 青年会活動をしていても何を目標にやっているのか、自分たちの自己満足で終わっていないのかという疑問がわいてきます。地域で、町で何を自分たちに要求しているのかということがわからないうちです。

私は教育について、今の子どもたちが、小学校低学年でクラスの半数までが習い物をやっている事にびっくりしました。遊びもパソコンを使ったものとか一人ひとりがかつてに遊べるものが多くなってきました。昔ながらの遊

びとして、ガキ大将を頂点とした縦のつながりがなくなってきました。そういう傾向が、若い人たちにも波及してきていて組織の中で活動を通じ地域を盛りあげようとする気持が薄らいできていっているように思います。

町 長 現代は人間の価値感が多種多様化してきています。お金、地位、名誉など外からの面で人間を評価する傾向が、日本の社会にはあります。それは



それとして、評価するにしても、私は、自分の意見をしっかりと持って社会の一員として貢献しようとしている姿勢こそが大切でなからうかと考えています。そういう人間こそが本物であり、尊敬するに値するものと思っています。将来いかなる職業につこうとも、子どもの個性をしっかりと見きわめた親の姿勢なり考え方が必要なのではないでしょうか。もっと自由に型にはまらない教育というものがあっていいと思います。

司 会 いずれ次代を担う世代であるこ

とは確かな訳ですから、われわれ大人も、分けへだてなく子どもへの暖かい目を注いでいかなければなりませんね
五十嵐 今日のお話を聞きながら、みなさんそれぞれにものすごくこの町を愛しているんだなということをしみじみ感じました。

そういう意味では、今の世代はもちろん、次代の人たちもこの町に残れるような受け皿づくりにとりくんできた方がいいと思います。またその受け皿は青年が努力して働きかけていかなければならないと思います。

町 長 地元に残れるような魅力ある町づくり、総合的受け皿のある町づくりということですね。

司 会 魅力あるふるさとづくりに青年が、お互いに手をたがさず、話だけで終らせないで頑張っていきましょう。

町 長 若い方々の夢なりを夢と終らせない町づくりに今後も全力で取り組んでいきたいと考えています。社会教育の一端として、なおかつ国際青年年を契機にこのような交流を深めていってほしいと思います。

よく二十一世紀と言われますが、おそらくは、ありとあらゆる面に大きな変革をもたらすものと思います。このような社会にあって青年自らも日頃研鑽し討議をしていくならば、なお一層充実した青年の姿が浮きぼりにされることと思います。

どんな小さな事でも結構です。町発展、地域発展への提言をしてくださるようお願いいたします。
今日は、どうもありがとうございました。